

### 第31回 温泉関係功労者被表彰者(50音順)

氏名	年齢	役職等	功績概要
オカムラ マコト 岡村 眞	62	高知大学理学部応用理学科災害科学講座教授  高知県環境審議会温泉部会委員	平成8年から15年以上にわたり、高知県環境審議会温泉部会において、地質学分野の専門的知見を活かした助言を行うなど、温泉行政の推進に多大に貢献した。
カトウ ナオユキ 加藤 尚之	59	東邦大学医学部准教授	昭和50年から地球化学及び温泉環境化学の分野において、37年間研究を行ってきた。その中で早くから微量元素に着目し、誘導結合プラズマ質量分析装置を温泉水の微量元素の測定に用いた温泉分析法を確立し、温泉の生成機構を微量元素から明らかにしてきた。また、温泉施設でレジオネラに感染する事例が多発した頃、レジオネラ属菌が息できる条件を明らかにするとともに、レジオネラ属菌の増殖抑制対策を提唱した。さらに、塩素薬剤に替わる温泉に優しい消毒剤として銀イオンによる消毒効果についても研究するなど、温泉分析法の基礎を構築するとともに、レジオネラ属菌などの研究を通じた温泉利用施設の安全管理、適正利用の推進に多大に貢献した。
クズヤ マサユキ 葛谷 昌之	69	岐阜薬科大学名誉教授  中部学院大学短期大学部副学長 人間福祉学部教授  岐阜県自然環境保全審議会会長 兼温泉部会長	平成9年から15年以上にわたり、岐阜県自然環境保全審議会温泉部会部会長として審議の中心的な役割を果たし、取りまとめに尽力するなど、温泉行政の推進に多大に貢献した。
サイトウ カツヤ 齊藤 勝彌	86	熊本県温泉協会顧問  熊本県温泉協会山鹿植木支部顧問	平成7年の熊本県温泉協会発足時から理事を務め、17年以上温泉資源の保護及び適正利用について積極的に取り組んできた。特に、温泉再分析の義務付け及び可燃性天然ガスによる災害の防止等の2回に渡る温泉法の改正時に、熊本県内の温泉事業者向けのパンフレットを作成するなど、熊本県内の温泉の適正かつ安全な利用に関する普及啓発に多大に貢献した。
サトウ ヨシマサ 佐藤 義正	78	(社)日本温泉協会常務理事  (株)ホテル大観代表取締役社長  つなぎ温泉観光協会会長  (社)国際観光旅館連盟会長  (社)日本観光振興協会副会長  (財)岩手県観光協会理事長	(社)日本温泉協会において、平成9年から温泉資源の保護と適正利用に関する広報普及活動の推進に努めることにより、温泉資源の保護と適正利用の推進に貢献した。また、平成7年から13年間岩手県自然環境保全審議会及び環境審議会の温泉部会委員、部会長を歴任するなど、温泉資源の保護に尽力し、温泉行政の推進に多大に貢献した。また、東日本大震災の際には、被災者のために地域の温泉旅館の客室を提供し、復興支援に指導的な役割を果たした。
ノダ テツロウ 野田 徹郎	67	(独)産業技術総合研究所地圏資源環境研究部門顧問  茨城県自然環境保全審議会委員  日本温泉科学会評議員、理事、将来委員会委員長	平成4年から19年以上にわたり茨城県自然環境保全審議会委員を務め、地質学分野の専門家として茨城県内の温泉行政の円滑な推進及び温泉資源の保護に多大に貢献した。

ハダシゲキ 波田重熙	71	神戸女子大学学長  兵庫県環境審議会委員	平成8年から15年以上にわたり、兵庫県自然環境保全審議会及び兵庫県環境審議会温泉部会において、審議の中心的な役割を果たし、取りまとめに尽力するなど、温泉行政の推進に多大に貢献した。
カナガワケンオンセンチ 神奈川県温泉地 ガクケンキョウジョ 学研究所		所長 吉田 明夫	昭和36年設立以来、神奈川県全域の温泉・地下水、地質の試験検査、箱根温泉の温度・湧出量・水位の定期的測定、神奈川県内大深度温泉の経年変化の状況及びその帯水層の水文・地質に関する調査及び温泉の成因や循環機構を解明するための調査研究を継続して行っており、多くの成果を得ている。特に、箱根火山の地質、形成史に基づく温泉研究を総括して、1970年に作成された箱根の熱水活動モデルは、典型的な火山性温泉の成因モデルとして、学術的価値の高い成果として評価を得ており、長期間にわたり活用されてきた。 また、神奈川県の温泉行政の審査基準である「神奈川県温泉保護対策要綱」及び環境省の「温泉資源の保護に関するガイドライン」の策定にあたり、化学・地質学・水理学などの視点から調査研究で得た成果を行政施策に反映させる支援を行ってきた。 さらに、研究の成果の中で技術指導の参考になるものについては、積極的に情報提供を行い、源泉所有者に対する温泉保護や有効利用のための助言を行っているなど、調査研究で得た成果を様々な形で社会に貢献し、温泉資源の保護と適正利用の推進に大きく貢献した。
シャダンホウジン ナガノシ 社団法人 長野市 カイハツコウシャ 開発公社		理事長 鷲澤 正一	温泉の適正な利用の推進と普及啓発活動及び温泉資源の保護、並びに温泉の適正利用に関する研究活動など温泉を活用した様々な取組を積極的に行った。 特に、長野県温泉協会が認定する「温泉療養指導士」の資格を創設する協議会に参画するなど、制度の発足に貢献した。また、職員が「温泉療養指導士」を取得し、運営している施設において、県内外温泉利用者の健康増進、入浴指導等に積極的に取り組むなど、温泉の適正な利用及び普及啓発に多大に貢献した。